

厚生労働科学研究費補助金（腎疾患政策研究事業）

慢性腎臓病（CKD）に対する全国での普及啓発の推進、
地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献

分担研究報告書

各都道府県における市民公開講座、啓発イベントの支援

研究分担者：中川直樹 旭川医科大学・医学部・講師
 研究分担者：成田一衛 新潟大学・医歯学総合研究科 教授
 研究分担者：寺田典生 高知大学・教育研究医療学系臨床医学部門・教授
 研究分担者：柏原直樹 川崎医科大学・医学部・教授
 研究分担者：伊藤孝史 島根大学・医学部附属病院・准教授

研究要旨

医療従事者、行政機関、患者・家族、国民全体に対して、CKDの普及・啓発を全国展開するために各都道府県における市民公開講座の実態調査および啓発イベントの支援を行った。

日本腎臓病協会と連携し全国での普及啓発活動を把握することができ、今後の普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築に向けての基礎的知見を得ることができた。この結果をもとに、2020年度に向けて対策を検討する。

A. 研究目的

各都道府県における市民公開講座、啓発イベントの支援を行い、より多くの国民が腎疾患対策を実践する体制を構築することを目標とする。

B. 研究方法

1) 各都道府県における市民公開講座の実態調査

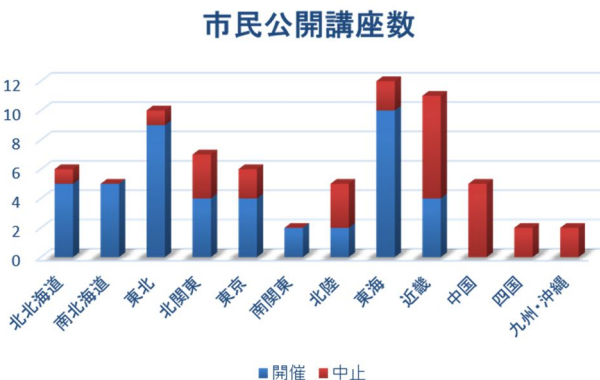
日本腎臓病協会の慢性腎臓病対策部会と連携し、全国12ブロックおよび各都道府県における市民公開講座の実態調査を行った。

2) 啓発イベントの支援

マスコットキャラクター「そらまめくん」(着ぐるみ)の管理/運営/輸送等を支援した。また啓発用の資料を作成し、配布した。

C. 研究結果

1) 各都道府県ブロックにおける市民公開講座数



全国で74の市民公開講座が企画され、そのうち46講座は予定通り実施されたが、28講座は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催中止となった。12ブロックにおいて企画された市民公開講座数では、東海ブロックが13回と最も多く、近畿ブロックが11回、東北ブロックが10回と次に多かった。都道府県別に見ると、北海道が11回と最も多く、愛知県が10回と次に多かった。一方、0回の県は13県あり、それらの地域に対し介入の余地があることが明らかとなった。



2) 啓発イベントの支援

市民公開講座の他、啓発パネル展・街頭キャンペーンも各地で企画・実施され、着ぐるみ、ジャンパー、幟、ピブス、シールおよび啓発リーフレットを送付し支援した。



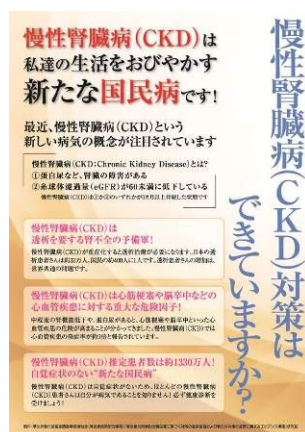
貸出品				
着ぐるみ	ジャンパー	幟	ピブス	シール
18	150	124	325	40

(着ぐるみ)

(ジャンパー、幟)



啓発リーフレット送付部数：8,000部



D. 考察

市民公開講座は全国各地で企画されたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実際に開催できたものは62%で、残りの38%は開催中止に追い込まれた。都道府県別にみると、不活発な地域があることが明らかとなり、今後開催のノウハウを伝え、分担研究者・研究協力者による開催業務の人的支援を行い、またすでに開催されている地域においても、さらなる充実を図る必要性が示唆された。

啓発イベントに対しては、イベント用品の貸し出し、啓発リーフレットの送付も行い支援を行った。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全国各地における市民公開講座、啓発イベントともに自粛されることが想定されるが、腎臓病療養指導士や患者会とも連携し、様々な方法による普及啓発活動を検討する必要性が示唆された。

E. 結論

全国各地における普及啓発活動の実態が明らかとなり、今後の普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築に向けての基礎的知見を得ることができた。今後費用対効果、地域の実情に適した方法論を考案する必要がある。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし